

実現のためにがんばります



近藤 なつ子

沢田 あゆみ

高月 まな

藤原 たけき

川村 のりあき

雨宮 たけひこ

新宿区役所屋上より



今年も区民の願い

よかったね! みんなの願いが実現!! うれしいね!

精神障害者にも障害者福祉手当を
長年の区民の願い、ついに実現へ!

区議会5会派14名で区長に申し入れ

11月27日、区議会5会派14名が共同で区長に申し入れを行い、身体・知的の障害者と難病患者に支給されている「心身障害者福祉手当」を精神障害者にも支給するよう求めました。

日本共産党区議団は10年前から実現に向けた条例提案などを行って来ましたが、23区では今年度新たに4区が実施し12区にまで広がってきました。これまで実現に背を向けていた区長が、10月に行われた都知事との懇談で実施に言及したことを受け、申し入れでは「来年度早期の実施」と「精神障害者保健福祉手帳1級のみならず2級以下も対象にする」ことを要望しました。

その後の代表質問でも各会派が取り上げ、区長は検討しているとの答弁で、実施の方向が示されました。精神障害者のみなさんの長年の願いがようやく実現することになります。



区長代理の福祉部長に要望書を手渡す。(日本共産党新宿区議会議員団、立憲民主党・無所属クラブ、社民党新宿区議会議員団、スタートアップ新宿、ちいさき声をすくいあげる会)

待機児童 解消へ 認可保育園が増えます!

- ▶ 2020年4月オープン
 - (仮) ウィズブック保育園中落合 (0歳児～定員66名) 中落合3-21-10
 - (仮) にじいろ保育園西早稲田 (1歳児～定員67名) 西早稲田1-2-3
▶ 保育ルーム早稲田はこちらに移行します。
 - (仮) ぴっころキッズ西早稲田 (1歳児～定員63名) 西早稲田3-9-14
▶ 高田馬場2丁目の認証保育所が移転し、認可保育園となります。
 - (仮) フロントアキッズ曙橋 (1・2歳児 定員24名) 河田町3-29プラウドフラット新宿河田町1F
 - (仮) フロントアキッズ曙橋分園 (3～5歳児 定員46名) 河田町3-16
▶ 河田町にある認証保育所と認可外保育施設が、認可保育園とその分園となります。
- ▶ 2020年6月オープン
 - (仮) にじいろ保育園四ッ谷 (1～3歳児 定員30名) 四ッ谷1-6-5

各議員と区議団は、
定例の法律・くらしの
相談会を行っています。
お気軽にお問合せください。
区議団控室
☎03-5273-3551

雨宮たけひこ
左門町13仙丈ビル501
電話 090-1544-5088

川村のりあき
西落合1-32-18
電話 070-6510-8893

近藤 なつ子
戸山1-16-16-310
電話 090-4849-3227

沢田 あゆみ
西早稲田2-19-1共美ビル101
電話 090-3088-9591

藤原 たけき
山吹町311 榎本荘1階
電話 070-5371-5853

高月 まな
大久保1-3-3-402
電話 080-5876-2337

代表質問



川村のりあき 議員

川村議員の代表質問では、次の5項目を取り上げました。

- 1 風水害対策について
- 2 「新宿区心身障害者福祉手当」を精神障害者にも適用することについて
- 3 新宿スポーツセンターにおける個人情報流出事件について
- 4 ヘイトスピーチ根絶のための対応について
- 5 羽田新飛行ルートについて

風水害対策について

台風19号が甚大な被害をもたらした、新宿区でも風水害への対策が改めて問われました。川村議員は、まず神田川や妙正寺川の護岸整備を進めること、洪水ハザードマップを浸水予想地域に全戸配布することを求めました。区長は、護岸整備の促進を都に働きかけていくと答えた一方、洪水ハザードマップは全戸配布せず、町会連合会会議や地域防災協議会などの場を中心に配布すると答えました。

自主避難所のあり方も問われました。

「町会役員が自主避難所開設の連絡を受けたが地域の人に連絡する手段がない」「毛布や敷物の提供がまちまちな対応」という区民の声があったことを指摘し、自主避難所開設のマニュアル化を求めました。これに対し区長は、マニュアル

等の修正を検討すると答えました。

情報提供のあり方については、SNSなど新たな伝達手段の導入・活用について研究する、土のうを身近で受け取れる場所を検討する、止水板の設置方法など情報提供を行う、との答弁でした。

ヘイトスピーチ根絶のための対応について

2019年4月から全面施行となった「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」の規定に基づき、10月16日に都は、練馬区や台東区で行われたデモや街宣をヘイト表現と認定しました。練馬区の街宣は区民が、台東区のデモは区が都に申出を行ったもので、両区とも区内のヘイトスピーチに対して監視・通報・申出を行う体制をとっています。

川村議員は、新宿区ではアルタ前のヘイトデモ情報がノーマークであったことを指摘し、情報収集体制の強化を求めました。さらに、区の施設内だけでなく区の区域内でヘイトスピーチが行われた場合、区が都条例に基づく申出を行うべきとただしました。また、ヘイトスピーチ根絶のために区内全域を対象とする条例制定を求めたのに対し、区は「自治基本条例」があることなどを理由に、条例制定の考えはないと答えました。



一般質問



雨宮たけひこ 議員

地震に強いまちへ、建て替えにも助成を！

区の耐震支援化事業は、2018年度までの13年間で木造建築物の耐震改修工事助成件数は381件、年間平均約29件です。葛飾区では2005年度から建替工事助成をはじめ、2012年度から区内全域で建替工事助成（上限160万円）、除却工事助成（上限50万円）を実施。2018年度までの実績は、建替工事が814



近藤なつ子 議員

難病患者の支援と障害福祉サービスのいわゆる「65歳問題」について

2013年施行の障害者総合支援法で、障害福祉サービスの対象に難病が加わりましたが、このサービス利用者には、区内の難病患者約3000人のうち、昨年度は10人に留まりました。また、新規で難病医療費助成を申請すると認定まで3ヶ月もかかり、それまで難病患者の生活は不安で大変なもの

件など合計1、790件、年平均約138件で新宿区の4・7倍の成果をあげています。

建替工事助成は23区で8区、除却工事助成は11区が実施しています。雨宮議員は、葛飾区に学び、新宿区でも建替工事助成を上限300万円、除却工事助成で上限50万円を全地域で実施すべきと提案しました。区は、所有者が自らの責務で対応するのが基本だとして助成は考えていないと答弁しました。

さらに、耐震補強工事の際の一時転居先の確保、リフォーム事業助成制度をつくり耐震補強工事とセットでの推進、ブロック塀の安全対策などについて質問しましたが、区は消極的な態度に終始しました。

近藤議員は新規の難病患者の支援をシステム化すること、障害福祉サービスの申請を保健センターでできるようにすること、外出支援サービスを使うようにすることなどを求めました。

区は、健康部と福祉部で情報共有して標準化された支援に取り組み、保健センターを申請窓口とするための連携について研究していく、移動支援のために適切なサービス提供に努めると答えました。

また、65歳以上は介護保険を優先するという「65歳問題」について、厚労省も通知を出している「一律に介護保険優先ではない」ことを本人に伝えて、サービスの適切な利用推進を訴えました。区は「基本的に介護保険が優先される」と答えました。

羽田新ルートを考えるについて



11月3日、日本共産党区議団の主催で、羽田空港の新ルートを考えるつどいを行い、110人が参加しました。講師は元JAL機長で航空評論家の杉江弘さん。国土交通省が計画している今回の新飛行ルートは、航空政策のない「場当たりの計画」であると厳しく批判しました。

もともと国交省は「国際線は成田、国内線は羽田」と棲み分けをしていたのに、それを破って羽田の国際線増便を進めていること、成田空港はまだ増便の余裕があることを挙げ、今回の新ルートはそもそも必要性がないと指摘しました。

また騒音対策として、飛行機が着陸する際の（削除）降下角度を国際基準の3.0度から3.5度に引き上げるとしていますが、コックピットから見るとまるでジェットコースターのように、世界中のパイロットは経験したことがなく着陸時の「しりもち事故」の危険も高まる、などといった専門家ならではの杉江さんのお話に、参加者からは「話を聞いてよかった」「新ルートは撤回だ」と感想がありました。

代表質問ではこれらの専門家の指摘について区長の見解を聞きましたが、国の言い分をそのまま答弁していました。

2020年度 予算要求書を 区長に提出



申し入れを行う区議団

12月3日、2020年度予算編成に対する要求書を吉住健一区長に提出しました。

区議団が実施した「区政アンケート」や、区内諸団体との懇談会をふまえた、51の重点項目を含む472項目の要求書です。